

埼玉県の腸管出血性大腸菌検出状況（2015.9.6 現在）

埼玉県で分離され埼玉県衛生研究所で確認した腸管出血性大腸菌は、2015年9月6日現在で106株です。昨年同時期の検出数183株より少ないものの、一昨年同時期の検出数と同じ検出数です。感染者の内訳で見ると下痢・腹痛などの症状を呈した有症状者からの分離が86株、業態者検便や接触者検便での無症状者からの分離が20株でした。高温多湿など腸管感染症の発生しやすい状況が今後も続くことから注意が必要です。分離されている血清型を表に示しました。O血清型で見ると例年通りO157が60株と最も多く、次いでO26が40株でした。

分離された腸管出血性大腸菌の血清型と毒素型(2015.9.6 現在)

血清型	毒素型	検出数
O157:H7	VT1&2	27
O157:H 検査中	VT1&2	5
O157:H7	VT2	22
O157:H -	VT1&2	1
O157:H -	VT2	4
O157:H -	VT1	1
O26:H11	VT1&2	9
O26:H 検査中	VT1&2	13
O26:H11	VT1	16
O26:H 検査中	VT1	2
O111:H -	VT1&2	1
O91:H14	VT1	1
O91:H -	VT1	1
O165:H -	VT1&2	1
OUT:H2	VT1	2
合計		106

埼玉県衛生研究所では、PFGE法を用いたDNA切断パターンによる型別を行っていますが、集団感染事例や家族内感染での集積以外に、異なる保健所管内での分離株が同一パターンを示す例があり、共通感染源の可能性も考えられますので、注意していく必要があります。今後とも、原因究明調査等へのご協力をお願いします。